

さっぽろ



1993.9.1 発行

郵便振替 小橋 1-570 あざら札幌

No 175	あざら札幌 連絡先 644-2927	今日通信 担当 T
	今日の内容 花魁道中=軍隊慰安!地球と女たちのための 婦道中?! ---- 1.2. 合宿報告記 --- 5.6 言葉に对する勝手 女の分断は許さ り印象 --- 3.4.5 かい --- 7 情報 ----- 8	

通信購読料 ¥1940 (年間)

花魁道中=軍隊慰安婦道中?!

高橋 茅恵

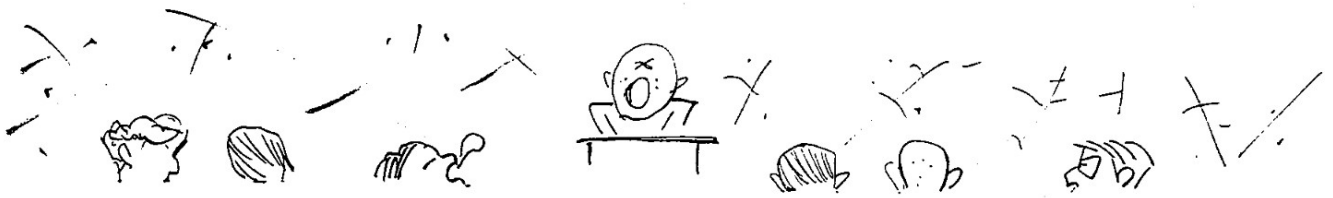
札幌市議会経済公営企業委員会を抗議の意味も込めて傍聴した。

一昨年、市議会で山口たか議員が「すすきの祭りの一環として行われる花魁道中について質問」をした際、まわりの男性市議より卑猥な野次に包まれ、私達ははからずも市議会の一面を垣間見た。売買春に関して過去から現在に至まで何の反省もないのだ。同じ頃、道警の「チカン誘発型職員募集ポスター」にも、私達は抗議した。しかし、去年は力不足で何の取組も出来ず悔しい思いをした。

そして今年、『女のスペース・おん』がスタートしたのが大きな力となって、市内4団体（母と女性教職員の会、女のスペース・おん、矯風会、あざら札幌）で

すすきの祭り花魁道中にかかわる陳情を提出した。

1. 花魁道中の札幌市に対する表敬訪問を取り止めてください。
2. すすきの祭りの呼び物の一つである花魁道中のイベントを中止するよう指導して下さい。
3. 薄野周辺に敷かれている花魁絵タイルを撤去して下さい。



会議直前の行政担当官と陳情者代表の近藤さんとの打ち合わせを横で聞いていた私は、うよつと厳肅な気持ちになった。

会議が始まり、惚れ惚れするような近藤さんの陳情に思わず拍手しそうになった（隣の若い女性は小さく拍手していた）。続いて委員からの質問にも澁み無く答える。本当にかっこいい！！

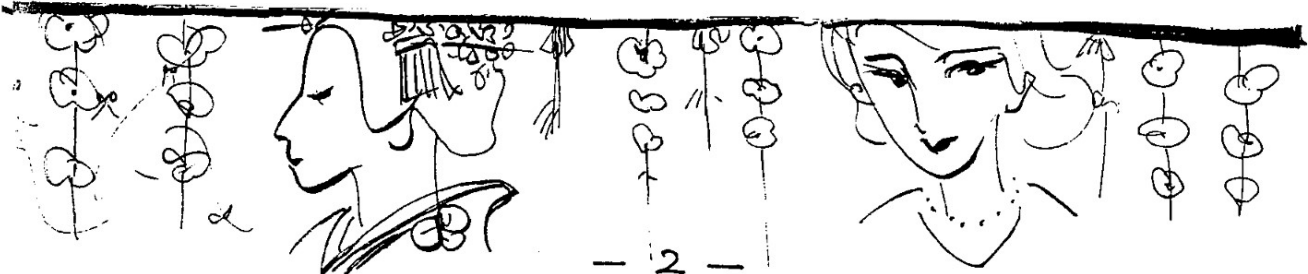
ここで近藤さんは傍聴席に戻り、委員と行政とのやりとりが多かった。ところが、このころから自民党席のあたりから雑談がはまった。厳肅な気持ちで入れたのもここまで。たった10数名の会議、そして今回は会議室を埋め尽くす傍聴者もいたのに「厚顔無恥」とはこの事か。議長席近くの3~4名のおじさん、議事は始めっから会議に参加していない。陳情者の話も聞いてなかった様子。彼等には議案を理解しようとする努力も理解する能力も欠けている、と私は見た。



市側の答弁も、近藤さんが澁み無く堂々としていた後だけにドタバタぶりが目についた。「懸命に参加してくれた一人の男性市議も全く的はずれの質問と意見（「私は、毎週1回必ず通っている薄野の道だが、全く気にもとめなかった。あの花魁タイルは絵が下手だと思える人がいるなら剥がしたらいい」）で傍聴席の失笑をかっていた。議案は継続審となりこの日はお終い。

議員会当日の道新朝刊にタイムリーにも『公娼制賛美する花魁道中やめよ』という投書掲載されていた。帯広市の男性からである。「・・・花魁とは政治の過酷さから人々の、男性の意識をそらすために時の為政者が設けた制度の犠牲者である。・・・花魁道中列えて、アジア諸国で従軍慰安婦道中を行うようなものだ・・・」男性がこのような主張してくれることはとても心強い。

議員会傍聴の時も感じたことだが、自分が一票を投じた候補者が、議員となってどんなことを述べているのか一度は見にいったらいいと思う。どんなに忙しくても一見の価値ありを見た。



言葉に対する勝手な印象

～「月経」や「自慰」について～

「月経」という言葉を、私はあまり使う気になれなくて、日常的には、もっぱら「生理」という言葉の方を使っています。

「月経」の方が字の表す意味が美しいとか、「生理」は直接“そのもの”を表現していない間接的な言い回しだから良くないとかありましたけど、実は私「月経」という言葉って、「音」がきれいなもの、口に出して発音したときの「音」。

だって「げ」という濁った音に続いて、「っ」という詰まる音(?)、さらに「け」というかたい音がある「げっけ・い」なんて、なんか音的に全然美しくないじゃん(「なんか～じゃん」という言い方の方が美しくないと言われそうだけど)。「せいり」の方がすんなりと流れるような音で、ラクというか、気持ちがいいの。

そんなわけで、意味的には「月経」という言葉を使いたいのだけど、音の気持ち良さ(言いやすさ)に負けて(慣れもあると思うけど)、「生理」を常用しています。

そういえば「メンス」はなぜか気持ちが悪い。音的には悪くないはずなんだけど、妙に古臭い感じと、少々汚いような印象がある(あ、「メス」を連想するのはいやかもしれない)——きっと、この言葉と接したときにそういうニュアンスもともに受け取ったんだろうなあ。

言葉に対するイメージの違いって、その人の接している言葉の環境というか、どういう言葉(のイメージ)に取り巻かれて暮らしているかに、かなり左右されるなって、最近改めて思った。…というのも、「投稿」というなんでもないような言葉に対して、エッチっぽく感じている男の子がいたものだから(それって、「投稿写真」とかのエッチな雑誌の方が普段接する機会が多いんでしょー、あなた、困った人ねえ)。

それと、もうひとつ気になっている言葉が「マスターベーション」かな。

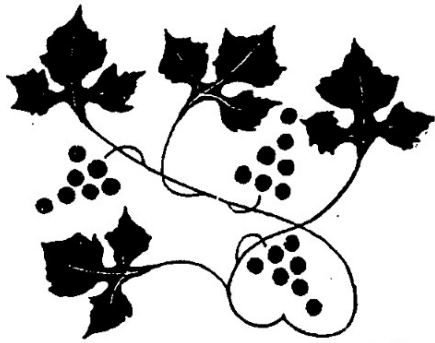
これもやっぱり「音」がきれいでしょ。なんたってこの「べー」という音がきれいだな。汚くてちょっとだらしない感じがして(我ながらすっごい偏見)、おまけに前後に付く「ター」も「ション」も、どうも美しくなくて、いやだ。加えて、長ったらしいところもきれいだ…日常会話としては使いくて(…待てよ、日常使うような言葉じゃないのか?)。

とはいえ、私は「オナニー」という言葉は、音的には、こっちのほうがいいなと思うんだけど、なんとなく使いたくない。それは単に、最初に「オナニー」という言葉を知ったとき、語源が旧約聖書中の人物オナンであり、もとになった話の筋から言えば、本来の意味は性交中絶、膣外射精であって、「自慰」の意味で使うのは本当は誤用だという情報が同時に入ってきたので、“そうか、誤用なのか、じゃあなるべく使いたくないな”と思っただけなんだけど。

別冊宝島の「威風堂々！ワイセツ大行進」をちらっと見せてもらったら、『オナニーを隠してどうする！』という文章があって、その筆者は《オナニーという言葉で育ったため、私にとってオナニーがもっとも親

神





しみやすく、もっとも直截的に自慰をイメージさせる言葉になっている》と書いていて、また、マスターベーションという言葉が女性誌で多く使われるが、それは《オナニーよりは高尚で知的な感じがする》からだろう、と不愉快がっていました。マスターベーションという言葉は、現実の行為と乖離していて、調査報告や抽象的な一般論として使われる場合はいいけど、「私が～するとき」

のように、“日常の、個人的な行為”を表現するには《似つかわしくなく、《うそくさい》感じがするということですね。私は“へえ～っ、そんなふうを感じるんだあ”と、感じ入ってしまいました。《「最近ではマスターベーションという言葉が多く使われ、オナニーのような陰湿な響きがなくなってよかったです」とこれは『モア・リポート』に載せられた女性の意見》だそうで、彼は、これに対して怒りまくっているんだけど、これに関しては、私も“へえ、オナニーって陰湿な響きがあったの？”と、思ってしまいました。

…そうよね、そりゃ「オナニー」だって、やーらしい口調や扱いで、言われたり、使われたりしてるの見てたら、《陰湿な》イメージにもなるわよねえ。

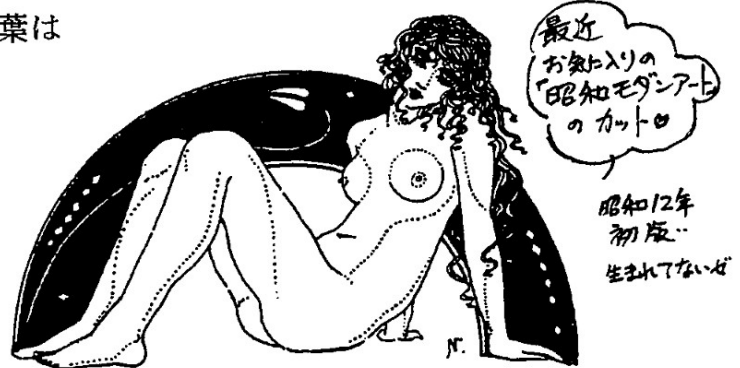
「マスターベーション」も、語源的にはラテン語の「手」と「淫蕩」の合成語で、どちらかという、否定的な意味合いが強いんだよね。「手淫」がその直訳にあたるんだろうけど、個人的なイメージということで言えば、私は高校生のとき、「寺山修司の仮面画報」に出てくる『迷宮双六』の遊び方の記述の中で、《…三の目が二度つづけてでたら、ひっそりと、手淫にふけったり、と、いろいろな注文に応じなければなりません。》というのを読んで、「手淫」がまるで、なにかこうロマンチックなことのように思えていた（いえ、意味は知ってたんですけどね）ことすらあったのよ、これって笑えるでしょおお？

そういえば、「自慰」って、字づらとしては“自らを慰める”で、なかなかいいなと思うのだけど、発音すると「じい」って、なんだか「じいや」を連想してしまうのよ。「若！」「何じゃ、じい！」なんて、もう時代劇（ギャグってどおする？）。

余談だけど、「暴行」という言葉も、私は“内臓の「膀胱」の方を先に連想しちゃうから、まぎらわしくていやだ”と言って、「今、先生が通って行ったのに、そんなこと廊下で、大声で言わないでよ、恥ずかしい」と、友人に言われてしまったことがある（これも高校時）。

ついでに「セックス」なんて“くしゃみ”みたいだわ（「せっくす」「へっくしゅ」なんちゃって）。ああもうここまで来たら、すっかりギャグよね、この文章。

確かにねー、いやなイメージのしみついた言葉は使いたくないんだけど、新しい言葉つくっても、意識が変わってなきゃ、新しい言葉にも同じイメージがまとわりついてくるだけで、同じことだし…かといって、言う方の意識を変えればいかと、汚いイメージを持たずに使っているつもりでも、聞く方のイメージが変わってなけりゃ、伝わらないし…意識も



言葉も変えつつ、新しいニュアンスで使いまくって、人目にさらす機会が増えれば違ってくるかしら…（もしかしてそれで“有機活動”みたいなもの?）。

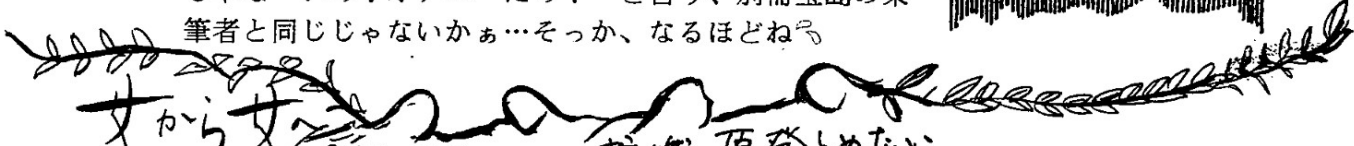
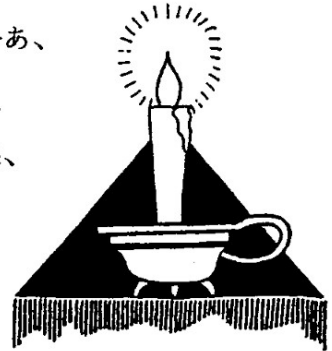
あっ、私ったら、こんなオチをつけるつもりじゃなかったのに、やだわ。単に、「音」の響きがきらいで使いたくない言葉もあるな～って程度のことを言ってみたかっただけなので、笑って聞き流してくださいね。

注)… < >内は そのまま引用した部分。

☆おまけ

うーむ、文脈としては入れたくなかったんですけど…
他人のコト「ん、そう感じるんだあ」とか言いながら、自分も似たことやってるのは気づいてしまった以上、書かなきゃラソのよ、気がして…

そういえば、「セックス」という言葉を使うようになったのって、この数年だなあ。高校生頃なんか特に、妙に汚らしいイメージが強くて（テレビの他に、いたずら電話で聞かされてしまった影響も大きいな、きつと）、「性交」の意味では使わなかった（「性別」「性器」の意味では使ってたけど）。「コイトゥス」「交合」「交接」等を使っていたなあ—あ、友達と会話するときというよりは、自分の頭の中で考えるときの話だけど。「日常の行為としての性交」を言葉にする必要がなかったのよね。で、その必要が生じてきた結果、前述の言葉では合わなくて、「セックス」という言葉も使えるようにしたんだろうな。…もしかしてこの感覚は、“自分の行為はマスターベーションなんて、立派なものじゃな—いっ！オナニーだっ！”と言う、別冊宝島の某筆者と同じじゃないかあ…そっか、なるほどね。



女から女へ
反核燃
8月11~13日
青森県小川厚湖
青年の家にて
核燃・原発とめたい
地球と女たちのための合宿報告記
谷 百合子

4月28日再処理工場着工の日、二重三重の門の前で、わたしたちは大声で泣き叫んだあと、「あきらめない」と誓って今回の合宿を計画した。北海道から熊本まで、女たち男たち子どもたち、約70名近くの参加者があった。

1日目「カとトリもどすワーク」… こんな変な世の中を変えていくのに理屈ではできない。核燃は怖いという思いの女と、女のヒステリックといわれようか何だろうかと出す。理屈ばかりこねてる男の論理をバイバイ。泣くか勝ち！
運動の中で批判しあうより、相手の傷と怒っていくのが、力になる事も確かである。私たちは巧みに持ち分に分断されている。村（現地の）女、都会の女、既婚・未婚、家事労働・賃労働、青森の農協女性部員の女たちの参加あり。互いの壁と壊すための話（あゝとした。世界中の命断絶をなくし、つなぐために、RC Co.カンセリングは素晴らしい方法である。安積進歩(RC'er)の素晴らしいリードも成功の一つであった。

2日目

「デーブエコロジーワーク」... 私たちも、いかに自然とかけ離れてしまっているか、いかに多くのものを失ってしまったか、「嘆き悲しみ」
「思い出すと」「他の生き物になりかわって語る」と一通じて、深く思い起こす。全生命のつどいは、森の中での「盟友さかし」として、風になたり、木になたり、ふくうになつて帰ってきてお面づくりをする。草むらの中で白い雲を見ながらの楽しいワークであった。

3日目

「核燃とめるためのグリーンストミング」
大分所在住のKさんが、身体を震わせ、何度も涙で止まりながら、核燃サイクルの話と、ドラム缶搬入について話してくれた。そのあと、どうやって止めるかグリーンストミングに入った。無責任に話していいのであるが、思わぬ力が入っている。核燃前に「BAR^{くでん}丸電」を出し、「核燃^{ホト}忍びて泣いていいよ」とママの社員のカウンセリングをする。(村中を走っていて思わぬ場所探しをしているワグシであった)各地から女性交替で「メシ屋」を作る。団結小屋を作る。土田村長の観光牧場に対抗して、ハーブ園を作るなど、その他にも実現するかも知れない「アインシュタイン!!」ひよたからコマというところもある。

4日目

「日の丸君の代り問題」... 朝、7時に国権掲揚のきまりがあった。事前にこのことは沢山話(あい、自由参加)し、一言スピーチをしようとしていた。君の代りカードと流れて、うやうやしく国権(?)を私たちの上4する。なんとこれは、全く戦時中! 私たちの代り(ほとんどの)一か一地の小い中、高きである。核燃も日の丸も根のことは同じ。私は「日の丸と置と見ると、中絶で、身体を震えると言った。従軍慰安婦の人のこと、PJJの人のこと、日の丸のこと」と話した。途中、取組員が、「布教活動をやめて下さい」と言ったらしいが続けた。他の人もベンホスの話、核燃の話などした。遊歩の「障壁」についての話は感動的であった。最終日、地元の女子中学生が、「この合宿で何よりもよかったのは皆さんに会えたことですよ」と言った。私たちは救われる思いをしたし、「希望」を見、出せた気がした。

男たち

今回の合宿の成功のひとつに保育をからてくれた男たちの力がある。お礼に遊歩のワークが70センチされたが、最終日の男たちの顔は少年のようだった。遊歩は一体、どんな魔法をかけたのだろうか?

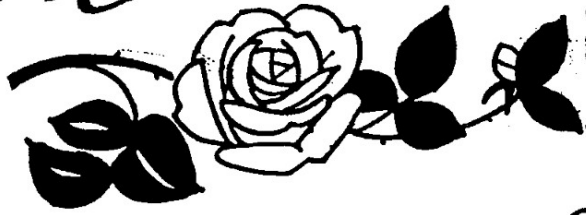
キャンプ

合宿後、二りな^{メニ}女々^{メニ}は、再び理ゲート前で16日までネットを張った。尾行されたりなからパフォーマンスをやってきた。そして、10月のそんじゅでの再会を誓って帰路についたのであった。



今から20年前。私が大学という自由な雰囲気初めて触れて、びっくり
 仰天していた頃。日本のウーマンリブたちは元気な声におおきく
 いた。よく、わたもわからず「性差別研究会」とかというサークルの末
 席あたりに加わって。魔女コンサートに出かけて圧倒された。大学祭で
 避妊具の展示としてペナリというものを初めてみた。... そのうち大学の
 女性と共同生活を始めた。「うちから。遊びに来ない？」なんて
 どこでも言うものだから。2間きりのアパートにぞくぞくと女たちが集
 まって来た。「お月見だ、七夕だ」と遊んでいるうちに、埋めぬ妊娠し
 た女たちの中絶手術の
 婦人科を紹介し合ったり
 について。日常的におしゃ
 べりして。4年間の学生
 業論文にまとめたけれど
 職員にはえらく不評だったのよ。そのころ。20代初めの力強くか
 い私が。女たちが寄り集まることはいつも男たちを不幸にさせる様だぞと
 女たちが命断されたことが。事は男たちの抑圧からの解放にほなるだぞと
 (おまに省略して書いてしまったけれど、かつまんど言うて)書いていた。しかし
 女たちから離れ。バラバラに地域社会へ散っていった時。私は「あ」と
 いう間に命断のワナに落ち込んでいったと思う。社会が持つ。強大な恋愛
 家族イデオロギー。ファミリー・ペーパー信仰がどんどん私を取りまき「あ
 ちがうのに...」という感じをいつもいだき。巻き込まれていくように思う。
 ちよとだけ。深く関わっていた男性とさよならして。「うー。時間は全部自分
 のもの」としみじみよこんでいた時。脱原飛のすごい女たちとめぐり合っ。「や
 と。ここに帰って来なよー！」と、オキオキ泣いて喜んでしまった。「女たちでや
 るんだ!!」とその心持で反りにリワークし。傷をいやし。たてをいもせしめか
 ら。ふと。男性たちのことが急にわかる今日この頃。何も男たちのことを心配
 しなくていいじゃないとも思うけど。どーも抑圧の中で生きてる彼らが
 少しでも解放されたら。どんなに世の中住みやすくなるだろうと思う。脱原飛
 うんどうも。もともと楽しくやっていたら。そんなことを思っていたら。個人
 的にも... おまにすばらしい家事能力に見とれていた。これおまに以上も年若い
 男性としばらく向き合わざるを得ないおまに。おまに。恋愛イデオロギーの確化み
 たい。この男性が。「逆差別、おまに言葉を使うものだから。「おまに言葉は男
 が使うのは2000年はやい」という。道のほろかさを感じてしまうけれど。この
 の時代にはもう若さに期待しつつ。楽く保育して。自分の内側からも。外
 側からも。決して女たちを命断されたように。注意深く。大胆に。
 (おまに)

Information



「裁判女変だ。
冤罪事件はこうして起こる！」

9月4日(土) 6:00~8:00PM
場所: 女の子27 研修室720B
参加費 500円

講演: 元札幌高等裁判所 渡部保夫さん

主催: 死刑廃止を考へては打てる会

連絡先: むらむら (746-2801)

中央区母と女性教職
員の集い「制服廃止
の中で見えてきた子供たち」

9月8日(水)
6:00~8:30PM

場所: 山鼻中学校
(南23条西13丁目
中央図書館裏)

講演: 加藤友子さん

連絡先: 母と女性教職
員の会
(561-2278)

「地球と女のからだ」フォーラム

10月3日 10:00AM~4:00PM

場所: 女性センター

午前 → 京都在住の「アリス」と RC, CO の
セリングの安積遊歩さんと「子ども女
らだ」についてフォーラム

午後 → 分科会 ①「ライフと女のからだ」 ②「障害と女のからだ」
③「からだほくし」の7-7 (シビルエイトのからだ
め話) ... etc.

今年が国際女性健康年と決。

女の心とからだにテーマを絞って、女もこれ始め話してみよう。

連絡先: 谷 (664-0632)



あとがき

サントナ(サカケツルバ)の「愛は子。愛。」ACMと、
エグゼのカルピスウォーター-9-ACMが最近好きです。